8 明治時代の府中

(1) 文明開化

甲武鉄道

1889年（明治22）、甲武鉄道（現在の中央線）の工事が始まり、新宿から国分寺を通り八王子まで開通した。

郵便

1872年（明治5）3月、府中番場の組頭であった矢島九兵衛が郵便取扱役に任命され、甲州街道沿いに郵便取扱所が開設された。この郵便取扱所は1875年（明治8）に府中郵便局と改称され、1880年（明治13）には為替や貯金の業務も行うようになった。

学校

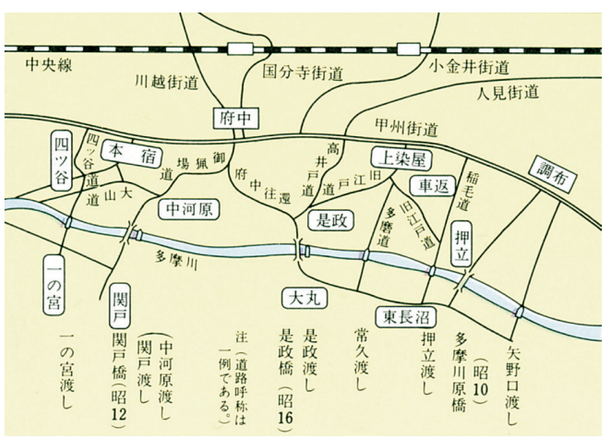
1872年（明治5）、「学制」が発布され、府中では、私塾（石坂塾・原田塾・里見塾）や寺子屋（安養寺・長福寺・幸福寺・玉川寺）が統合され、9学舎が開設された。このうち、至誠・成蹊学舎が合併して府中学校となり、後に府中第一小学校となる。また、明倫・知新・啓蒙・弘道・常久・有隣の6学舎が統合・改廃を重ね、多磨尋常小学校となり、後の府中第四小学校となった。1874年（明治7）にできた育幼学舎は小野学校となり、いったん分離した本宿学舎と合併し、奇秀学校となり、後の府中第五小学校となる。

乗合馬車の思い出　故 渡辺紀彦

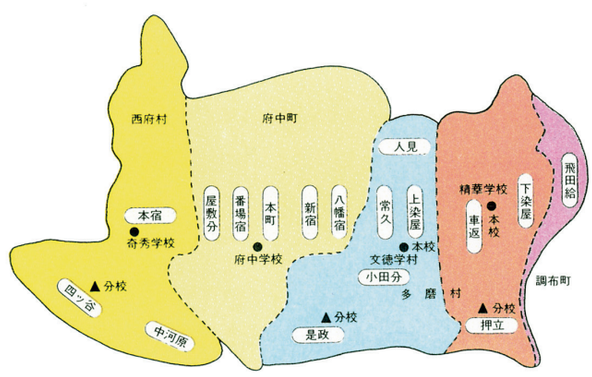
馬車は大体８人乗位の大きさで窓ガラスもなく、雨風をしのぐ時には屋根からズック様の布が垂れ下がるようになっていた。お客は後方にあるステップに足をかけて車内の人となる。一頭立て御者は豆腐屋が使った真鍮のラッパを、テトテトと吹き鳴らし、国分寺の坂を上がる時は並足で馬が懸命に頑張っていた。そして別当さんが鞭を当てる様を見るときは、降りてやりたい気持ちにさせられた。

府中・国分寺街道は砂利道で、お天気の日はほこりが立ち、車輪も鉄輪だったから心臓にひびく思いだった。今でも印象深いのは、馬の丸々と肥えたお尻がムックラ、ムクラとしていたこと、やがてシッポをいくらか上げたと思うと、馬は走りながらも馬糞を路上に落としていく。

（「府中市談５号」より）



中央線と府中地域の主要道路　（「府中市史」(下)より）



町村制後の府中地域小学校分布

（1892年（明治25）4月・「府中市史」より）

⑵ 行政区画の移り変わり

1860 年代

1868（明治元）府中市域は武蔵知県事と韮山（にらやま）県の管轄となる。

1869（明治 2）府中市域は品川県と韮山県の管轄となる。

1870 年代

1871（明治 4）廃藩置県により入間県・神奈川県の管轄となる。

1872（明治 5）府中市全域が神奈川県の管轄となる。

1878（明治 11）西・南・北多摩の三つの郡が成立し、府中駅（現・宮西町 4 丁目）に北多摩郡役所を設ける。

1880 年代

1880（明治 13）府中駅の 4 か町と屋敷分が合併して府中駅と改称する。

1882（明治 15）北多摩郡役所を高安寺に移転する。

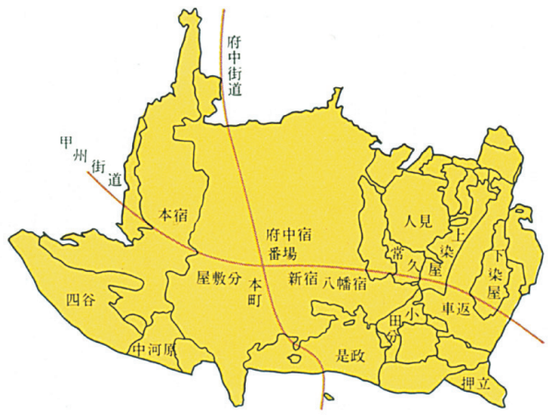
1885（明治 18）北多摩郡役所を移転（現・宮西町 1 丁目）

1889（明治 22）府中駅、多磨村、西府村の 1 町 2 村が成立。

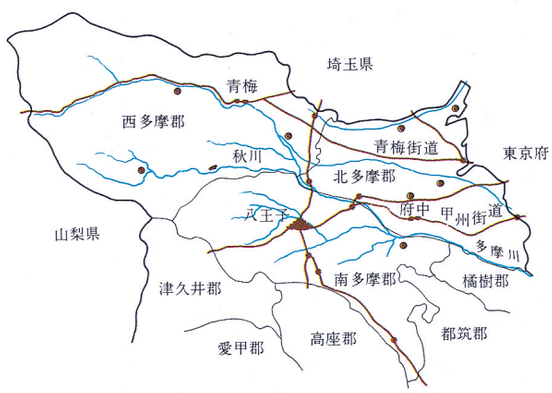
1890 年代

1891（明治 24）府中町役場設置（現・宮西町 2 丁目）

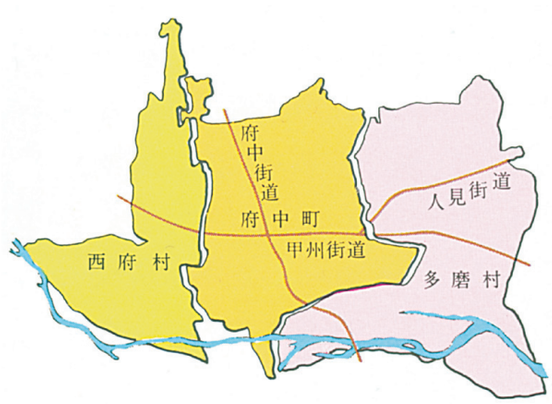
1893（明治 26）西・南・北多摩の三郡を東京府へ編入。府中駅を府中町に改称。



府中市地域の宿村



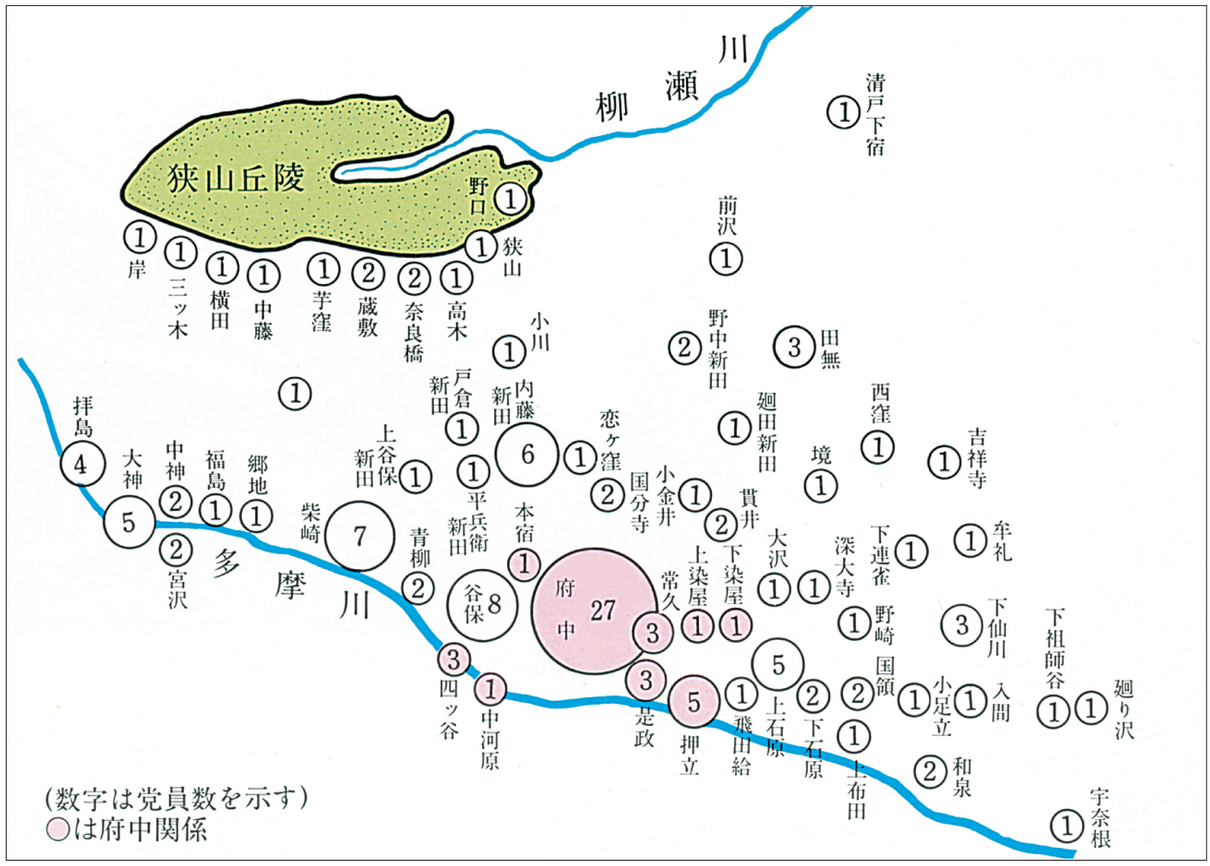
神奈川県下の三多摩



1町2村の合併

課題 自分の住んでいる地域は、江戸から明治にかけて何と呼ばれていたのか古地図などで調べてみよう。

(3) 自由民権運動



自治改進党分布図（「大和町史」より）

板垣退助、後藤象二郎らが中心となって、1877年（明治10）前後に起こした自由民権運動は、やがて府中も含めた多摩地域に大きな影響を与えた。石坂昌孝、村野常右衛門、森久保作蔵らが中心となり、多くの人々が自由民権運動で盛んに演説会を開いた。これらの人々を民権家という。

府中の高安寺では、1880年（明治13）から1883年（明治16）にかけて、神奈川県武蔵六郡懇親会、自治改進党の大会（結成式）なども行われた。

また、石坂が、吉野泰三、内野杢左衛門らとともに開いた三多摩懇親会の参加者は200人におよんだ。その後、石坂は、原町田で融貫社をつくり、1882年（明治15）同志の人々を率いて、板垣退助の自由党に入党、また、同年、三多摩改進党の結成式が府中駅で行われた。政府の弾圧は、運動の広がりとともに厳しくなるが、石坂らは、それにもめげず自由民権運動を盛り上げていった。

課題 自由民権運動が盛んになったことで、府中の人々の暮らしにどのような変化が起きたか調べてみよう。

9 大正・昭和初期の府中

⑴ 京王線開通

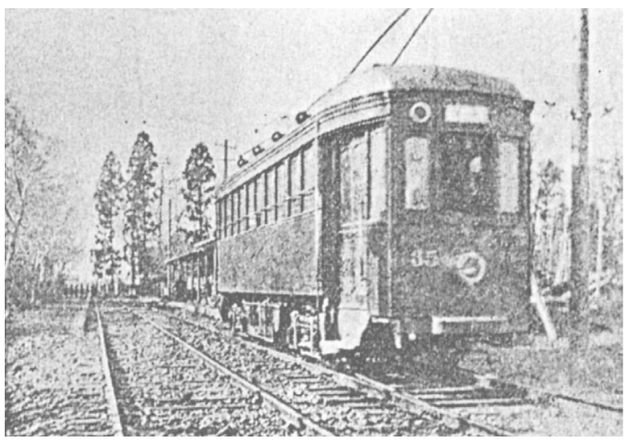
京王電気軌道（今の京王電鉄）は、1913年（大正2）に笹塚駅―調布駅に電車を開通させた。1916年（大正5）には新宿追分―府中駅間がつながった。

当時の電車は1両編成で、新宿追分駅まで約1時間かかった。

府中駅から東八王子駅(今の京王八王子駅)までは関連会社の玉南電気鉄道が1925年（大正14）に開業し、運行を始めた。しかし、府中駅までのレールの幅が異なっていたため、直通運転はできなかった。

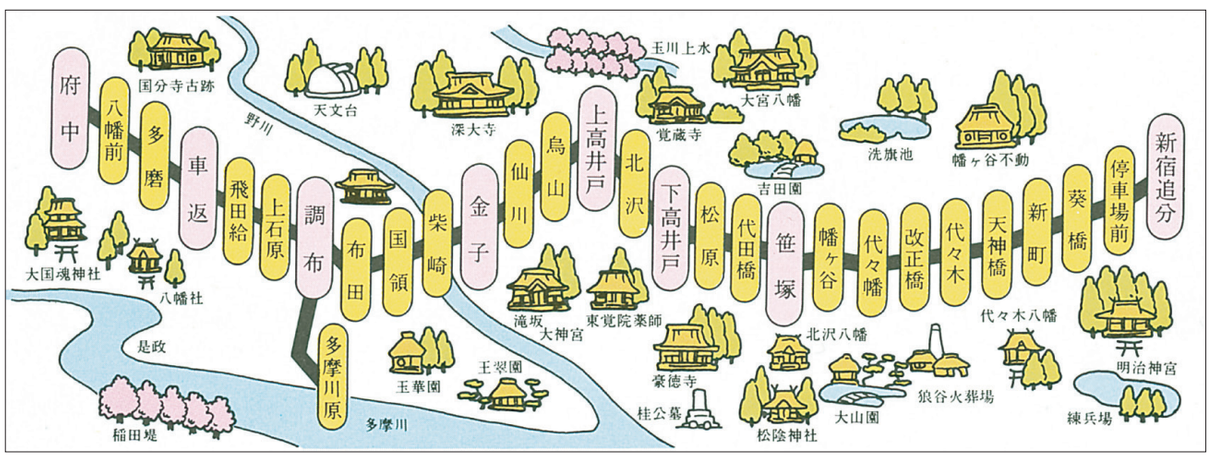
翌年、京王電気軌道は玉南電気鉄道を合併し、1928年（昭和3）に新宿追分―東八王子（今の京王八王子）間が全通した。続いて南武線も開通したことにより府中は近郊住宅地へと変貌し始めた。

甲州街道、神戸あたり（大正５年現宮西町）



新宿～府中間全開通後の府中駅での35号木造電車
向うに見える大木はケヤキ並木（大正12年頃）

大正５年当時の京王線路線図　（「京王帝都電鉄30年史」より）



課題　電車の開通により、府中の人々の暮らしはどのような変化があったか調べてみよう。

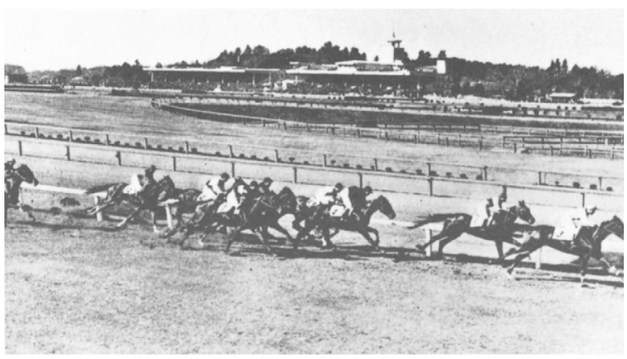
⑵ 大きな施設の進出

大正から昭和の初めにかけて、府中に大規模な施設が進出してきた。

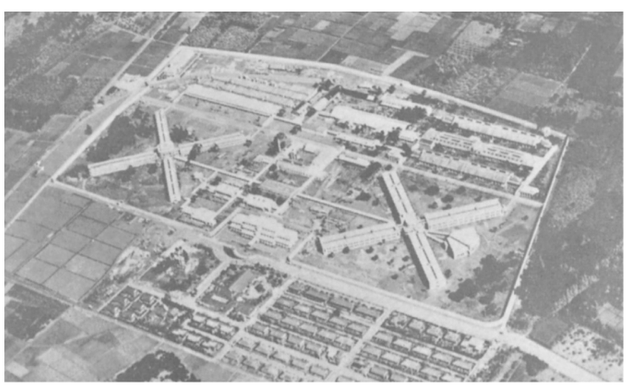
1923年（大正12）には私立明星実務学校（今の明星学苑）が開校し、東京市内の人口増加を受けて、多磨霊園も開設された。また、同年9月1日の関東大震災で大破した巣鴨刑務所の府中移転計画が立ち上がり、当時雑木林だった土地を切り開き、総敷地面積約28haの府中刑務所が10年の歳月をかけ、1935年（昭和10）に完成した。

1933年（昭和8）には、総面積78ha、一周2100mのコースをもつ東京競馬場が目黒から移転し、開設された。1935年（昭和10）には東京高等農林学校（今の東京農工大学）が移転してきた。このような施設の建設により、このころの府中の人口は、急激に増加し始めた。

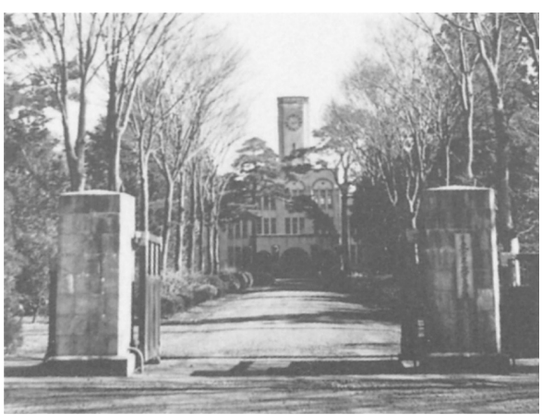
開設当時の多磨霊園正門（大正12年）



東京競馬場（昭和10年）



開設当初の刑務所全景（昭和10年）



東京高等農林学校（昭和10年）

府中町の人口

1915年（大正4）	5,838人
1920年（大正9）	5,762人
1925年（大正14）	7,826人
1930年（昭和5）	8,490人

課題 東京競馬場など大きな施設が府中につくられた理由を調べ、当時の府中の人々の生活がどのように変化したのか考えてみよう。

10 戦中・戦後期の府中

⑴ 軍需工場の進出

陸軍燃料廠（昭和13年）・浅間町１丁目

東京芝浦電気株式会社 府中工場 1945年（昭和20年）

旧陸軍調布飛行場白糸台掩体壕（平成24年）

昭和10年代には、三多摩地域へ軍需工場が進出してきた。府中町には、1938年（昭和13）に日本製鋼所武蔵製作所や陸軍燃料敞（ねんりょうしょう）が、1940年（昭和15）に東京芝浦電気株式会社府中工場が建設された。これにより、人口流入が見られ、この時期の府中の人口は急激に増加した。

日本本土への空襲は1942年（昭和17）4月から始まり、1944年（昭和19）の秋頃から45年にかけて本格的に行われ、関東各地でも多大な被害が広がった。

府中においても空襲に備え、陸軍調布飛行場の戦闘機「飛燕（ひえん）」を隠すため掩体壕（えんたいごう）が白糸台につくられた。なお、府中では、八王子や立川に比べて大規模な空襲の被害を受けることはなかった。

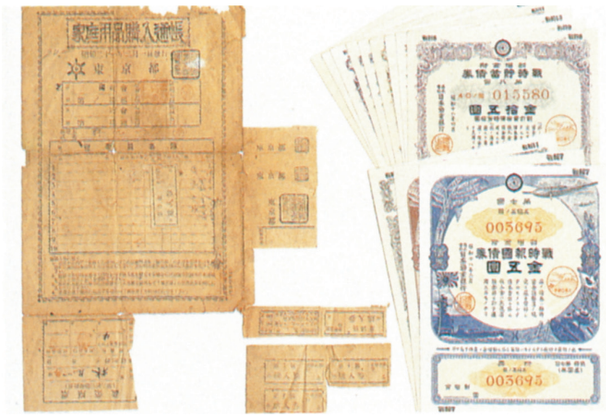
府中町の人口

1930年（昭和５）	8,490人
1935年（昭和10）	10,656人
1940年（昭和15）	16,436人
1945年（昭和20）	21,867人

課題 戦時中の府中町の人口が急に増えているのはなぜだろう。

⑵ 戦時中の暮らし

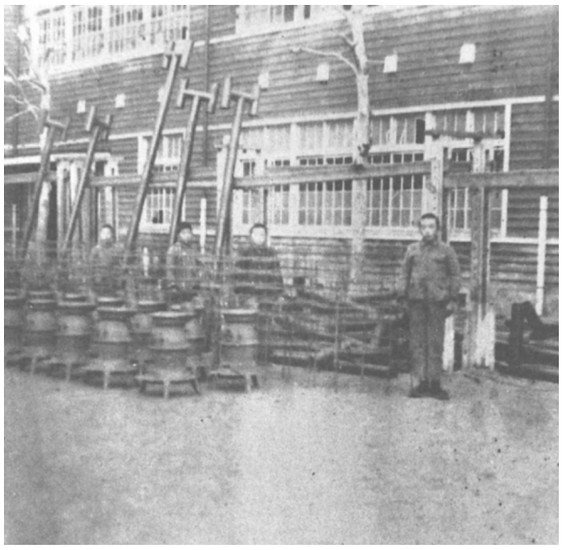
戦争が長引くにつれて、貿易が行きづまり、養蚕も衰え、食糧も不足した。そこで多くの桑畑が芋畑に変わっていった。戦争中は町内会が組織され、1組が10軒ぐらいの隣組に分けられて、様々な配給券や物資を分配したり、防火訓練を行って空襲に備えたりした。これにより政府の考えが国民のすみずみにまで行きわたった。アメリカ合衆国のB29爆撃機による本土空襲の可能性が高まった1944年（昭和19）、高安寺などの寺に東京都内の赤坂から国民学校の児童が疎開してきた。



配給切符と戦時国債

府中町女子青年分団行進 1937年（昭和12）

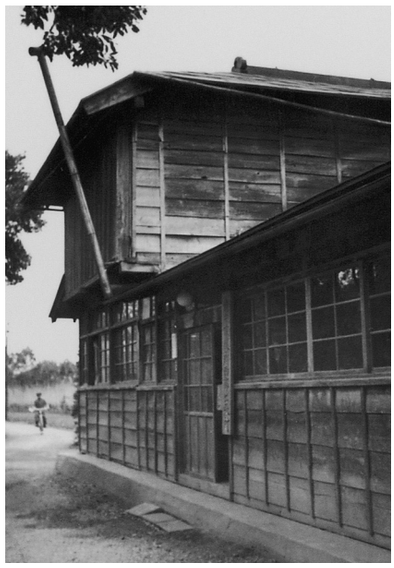
防空演習 1944年（昭和19）


府中小学校（現在の府中一小）のストーブ供出
1944年（昭和19）

課題 身近な人に、第二次世界大戦（日中戦争、太平洋戦争）前後の生活について話を聞いてみよう。

⑶ 府中市の誕生

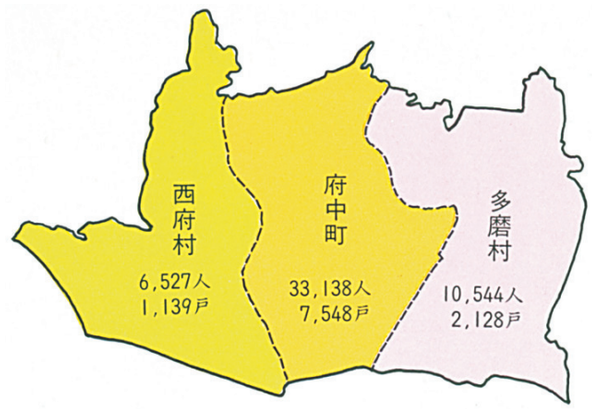
町村合併については早くからその兆しがあり、1954 年（昭和 29）4 月 1 日、府中町・多磨村・西府村が合併して、府中市が生まれた。ちょうどこの頃は、政府が町村合併促進法を定めて、小さな町や村が合併して、仕事の能率を高め、住民の生活を向上させようと考えていた時期に当たる。府中は、市としての条件が整ってきたので、市制をしいたのである。



旧西府村役場 1955 年（昭和 30）

旧府中町役場 1956 年（昭和 31）

旧多磨村役場 1955 年（昭和 30）



府中市合併前の人口

新庁舎完成 1960年（昭和35）

⑷ 高度経済成長期の府中

戦後日本の高度経済成長の流れの中、府中市も工業化・都市化を進めていった。

府中市には戦前から東芝府中工場や日本製鋼所が建設されていたが、1958 年（昭和 33）「東京都府中市工場設置奨励に関する条例」が制定されると、1963 年（昭和 38）にはサントリー武蔵野ビール工場や五藤光学研究所、翌年には日本電気（現・府中事業場）などの大規模工場が誘致された。

府中市中心街　1955年（昭和30）
中央は大國魂神社、右下は京王線府中駅

東京オリンピック
1964年（昭和39）10月 府中市が「競歩」の折り返し点になる。（緑町1丁目）

3億円強奪事件　1968年（昭和43）
栄町3丁目、右は府中刑務所の塀

1964年（昭和39）に開催された第18回東京オリンピック大会は首都圏の道路交通網の整備を促進させた。

この影響で府中市では、1961年（昭和36）には新甲州街道、1969年（昭和44）には中央自動車道が開通した。

また、1968年（昭和43）に栄町3丁目で起こった3億円強奪事件は、全国的に注目を集めた。

課題　高度経済成長期の頃の府中の様子を知っている人から、当時の様子を聞いてみよう。

⑸ 府中市の宅地化

高度経済成長の流れは首都東京への人口集中を促し、府中市の人口も市制当初の1954年（昭和29）の5万人から1969年（昭和44）には15万人と急増していった。国鉄武蔵野線（現・ＪＲ武蔵野線）開通の影響もあって、宅地化が進み、市街地が拡大した。

住宅公団晴見町団地完成　1960年（昭和35）

中央自動車道（調布ー八王子）開通
1967年（昭和42）

武蔵野線開通（府中本町ー新松戸間）
1973年（昭和48）

⑹ 府中市の発展

1984年（昭和59）に人口20万人を突破した府中市では、1985年（昭和60）には市内の地域プール、1987年（昭和62）には地域体育館が全て完成するなど、市民が住みよいまちづくりが計画的に進められていった。

1991年（平成3）には京王線府中駅高架化が完成し、1994年（平成6）には府中スカイナードが完成するなど、生活環境の充実も進んでいる。また、府中市には高度な情報機能をもつ業務ビルが集積したインテリジェントパークや、関東村跡地には大学や総合病院等の公共公益施設がつくられるなど、多摩地域を代表する都市として発展を続けている。

総合体育館増築部分完成 1988年（昭和63）

インテリジェントパーク

東京外国語大学が朝日町に移転　2001年（平成13）

スカイナード完成　1994年（平成6）

課題

① 自分の家族は、いつ頃から府中に住むようになったかを聞き、当時の府中の様子を調べてみよう。
② 府中市には、どのような基本構想の総合計画があるか調べてみよう。